

認知症のこと、知っていますか？



日本でも高齢化が進むにつれ認知症患者の数も増えています。2020年の65才以上の高齢者の認知症有病者は6人に1人ですが、2025年には5人に1人、20%になるとも言われています。

市川市も例外ではありません。日々、さまざまな相談をお受けしているなかで、認知症(疑い)の方に関する相談もあります。

高齢者サポートセンター国分の集計では、こちらが受けた全相談実数に対しての認知症相談実数の割合が、令和元年度上半期27%、下半期33.6%、令和2年度上半期33.6%、下半期34.4%とわずかですが増加がみられます。

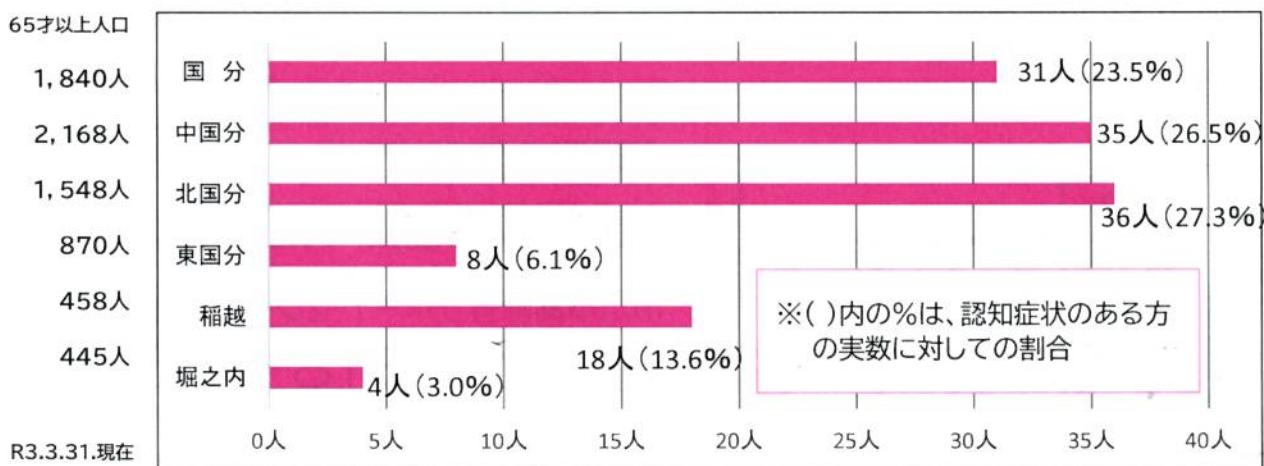
認知症状のある方についての相談

令和2年度10月～3月の高齢者サポートセンター国分が受けた相談延数1,546人、実数384人、そのうちの132人(34.4%)が、認知症状のある方についての相談です。

認知機能に不安が出てきたことで、他者との交流や運動の機会を持ち活性化させたいとか、ひとりで出かけて帰れず警察に保護されたために、安全に過ごす時間をもつためにもデイサービスに通ってもらいたいという相談もあります。

また、近隣住民から「どうやら認知症があるらしい。見守ってきたが、いよいよ心配になってきた。」と相談があり、訪問するとすでに認知症が進行しており貯金もおろせない、光熱費の支払いもできないままの生活をしていて、支援に入らせてもらうこともありました。

親戚の方の協力で今では施設に入ることができましたが、近隣住民から相談がなければ、もっと大変な状況に陥っていたかもしれません。



※令和2年度10月～3月 高齢者サポートセンター国分実績より

裏面あり→

誰もがなる
可能性があります

【認知症とは】

いろいろな原因で脳の細胞が傷ついたり働きが悪くなることによりさまざまな障がいが起こり、日常生活に支障がでている状態を指します。

認知症の人だからと付き合いを
変える必要は基本的にはありません

【認知症の人への接し方】

記憶や判断力の低下により、日常生活に様々な支障が起こることに対してご本人が戸惑い、不安に感じていることを理解して接することが大切です。

【認知症の症状例】

- さっき聞いたことが思い出せない、覚えていたはずの記憶が失われる
 - 前もって計画を立てることができない、家電が使いこなせない
 - 時間、季節、場所等がわからなくなる、道順などが分からなくなる
 - 考えるスピードが遅くなる、いつもと違うことで混乱しやすくなる
- など

抜粋:「市川市地域支えあい課 市川市認知症ガイドブック(第4版)」[「全国キャラバンメイト連絡協議会 認知症を学び地域で支えよう」]

「認知症かな?」と思ったら、かかりつけのお医者さんに相談しましょう。
わたしたち、高齢者サポートセンターも相談窓口のひとつです。
ぜひ、覚えておいてください。



高齢者サポートセンター国分は…

市川市の委託を受けた、地域のなかの高齢者の相談窓口です。

保健師等・社会福祉士・主任ケアマネジャーなどの専門職員が、高齢者の健康や介護の相談などに応じます。高齢者が住み慣れた地域でより安心して暮らせるように、地域に根差した相談支援を行います。

※新型コロナ感染の拡大防止のため、窓口をご利用の際は、事前にご連絡をいただきますよう、お願いいたします。

- 介護サービスについて知りたい、利用したい
 - 市の福祉サービスについて知りたい、利用したい
 - 身体の機能に不安がある
 - 認知症に関すること
- など

相談無料
ご説明やご提案、
申請のお手伝い…



相談は無料です。
気軽にご相談ください。

市川市高齢者サポートセンター国分
電話 047-318-5565

住所 市川市東国分1丁目27番18号

※ 平日 8時45分～5時15分(休業 土・日・祝・年末年始)

※ 担当: 国分、中国分、北国分、稲越、東国分、堀之内